

第 1 回川西町第 8 次高齢者福祉計画及び第 7 期介護保険事業計画策定委員会

【 議 事 要 旨 】

日 時	平成 29 年 6 月 29 日（木曜日）13 時 30 分～15 時 00 分
会 場	川西町役場 2 階 研修室 A
出席者	別紙名簿参照（委員 13 名中 13 名出席）
次 第	1 開会あいさつ 2 委員紹介、会長選出 3 議事 （1）介護保険法改正ポイント 資料 1－1 介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方 資料 1－2 地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律のポイント （2）第 8 次高齢者福祉計画及び第 7 期介護保険事業計画の策定ポイント 資料 2 川西町第 8 次高齢者福祉計画及び第 7 期介護保険事業計画「策定のポイント」 （3）アンケート調査結果について（概要説明） 「川西町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定のためのアンケート調査結果報告書」
配布資料	【事前配布資料】 ○資料 1－1 介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方 ○資料 1－2 地域包括ケアシステム強化のための介護保険法等の一部を改正する法律のポイント ○資 料 2 川西町第 8 次高齢者福祉計画及び第 7 期介護保険事業計画「策定のポイント」 ○川西町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定のためのアンケート調査結果報告書 【当日配布資料】 ○次 第 ○参照 1 第 7 次高齢者福祉計画及び第 6 期介護保険事業計画【地域包括ケアシステム】の取り組み状況 ○参照 2 今後の策定委員会のスケジュール ○川西町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会設置要綱 ○川西町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会委員名簿

議事録要旨	(事務局進行) 1 開会あいさつ (竹村町長) 皆さま、こんにちは お忙しいところ、また雨が少し降っておりますけれども、足元の悪い中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。メンバーの皆さまの中には、連日ご出席いただいている方もおられます。本当に川西町のために連日に渡りご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 この度の会議でございますが、高齢者福祉計画ならびに介護保険事業計画ということでございまして、平成 30 年度から新しい計画が始まるにあたって、皆さま方にご審議していただくわけでございます。前回の計画時の平成 26 年時点では、川西町の高齢者の比率は約 30%でございましたが、現在では 32%を超えるというような状況で、この 3 年間でさらに一段と高齢化比率が増しているわけでございます。 昨年は、本町で大元の計画になります、第三次総合計画というものを策定いたしました。テーマといたしましては、「安心 すくすく 豊かな心を育む かわにし」ということございまして、この安心というのは、高齢者の皆さま方も含めまして、全ての川西町民が安心してすごせるまちをつくっていくということをテーマに掲げております。 今回の計画につきましては、町民の皆さま方が安心して暮らせるまちということをぜひともご念頭にいただきながら、計画のご審議をいただきますようお願い申し上げまして、冒頭のあいさつとさせていただきます。 どうぞ皆さま方、よろしくお願い申し上げます。 2 委員紹介、会長選出 (委員の氏名、別紙委員名簿参照) (会長進行) 3 議事 (1) 介護保険法改正ポイント 【事務局資料説明】 ① 介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方(資料 1-1) ② 地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律のポイント(資料 1-2) 【質問・意見等なし】
---------------------	--

	(2) 第8次高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画の策定ポイント 川西町第8次高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画「策定のポイント」(資料2) 【 事務局資料説明 】 【 質問・意見等なし 】 (3) アンケート調査結果について(概要説明) 【 事務局資料説明 】 「川西町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定のためのアンケート調査結果報告書」 【 質疑応答 】 (A委員) このアンケート調査ですが、要支援、要介護認定者を除くということは、この質問項目をみたら、高齢者福祉計画を策定するためのものなのかなという気がして、介護保険の事業量というのは、実績をもとに推計していくということよろしいですか。 (事務局) 今回の介護予防日常生活圏域ニーズ調査につきましては、割とお元気な方を対象とした、内容的にもそのような内容で構成されています。この内容を、介護を受けていらっしゃる方にはできないというところもありまして、要支援の方を入れるかどうかという点も検討しましたが、在宅介護実態調査で要支援の方に聞き取りや郵送でのアンケートを行うことに決めました。両方を実施すると重複してしまうということもあり、こちらは認定を受けていらっしゃる方を対象としました。 介護保険の計画につきましては、国の「見える化システム」というものを使っていくということになっております。そちらで介護保険の事業状況報告、毎月国に報告しているものがありますが、そちらが全て反映されていくことが見込まれています。そこからデータを拾い上げ、システムがまだ稼働していないので詳細が分からないのですが、見込み量を算定していくということが予測されます。このアンケート自体も見える化システムに落とし込みをします。それが、どのような影響があるのかという点はまだ具体的に見えてきていないところです。今までの実績のデータをもとに国のシステムができあがっているということで、現時点では捉えている状況です。
--	--

	(A委員) なぜそのようなことを聞くかと申しますと、以前は、ワークシートと言うものにアンケート調査の数値を入力し、標準給付負担額や、最終的には介護保険料まで算定しているという流れでした。アンケートにもとづいてその数値を算出するという認識があったので、説明を聞いていましたら、アンケートの内容に介護保険のニーズの項目がありませんでしたので、それは毎月国へ報告しており、今の新しいシステムに自動的に入るもので、今後3年間の数量とか数値とかを積算してくれるということでしょうか。 (事務局) そのとおりです。 このアンケートの内容も取り込まれます。その点がどのように反映されていくのかはまだ不確かですが、こちらもリンクされていると考えられます。 (A委員) そのあたりについて、数字を含めて、川西の住民さまで興味をお持ちの方がたくさんおられるので、その根拠を説明できるようになっておいていただけたらと思います。 (B委員) 先ほどおっしゃっていただいたように、以前は本当に、どういう事業を何件やっていくか、ここではどれくらいの量が必要かということから、この調査内容をみていると、いよいよ本当に今度は中身の質をどう高めていくかといった時代に来たのかなと改めて思いました。 これまで、いずれにしてもこれから圧倒的に高齢者の方が増える中で、まして75歳以上がかなり増えてくることが想定されていまして、その中には医療の必要な方がさらに多く含まれます。色々なことを考えるときに、今からその予防をどう広げていくかという意味で、今回は対象がまだ予防段階の人達への調査がこの中身かなと思われます。その人たちが今後、町行政がお考えになっている介護予防に対する運動施策などに本当に入っていったいただけるのかどうか。まだまだ結構だと言われている人も、大半が、実は非常に気分が4割以上も沈んでいる人がいるとかいうのが今この中でかなり出てきていまして、果たして「やれやれ」と言われている施策に、そうそう簡単に60代以上の方が、積極的に入っていったいただけるのかということに、非常に不安を感じる結果だなということは正直思い
--	--

ました。ですので、当然ながら、今介護をするかしないかどうするかという現状にあるさらに上の高齢者の方の施策はもちろんやっていくのですが、このくらいの大丈夫だと思われる人達の現状を早めに予防していくというのが、多分今回の改定の大きな目玉である介護予防施策の強化だというふうには思った次第です。

最終的にひしひしとを感じるのが、やはりご夫婦2人暮らし、単身世帯、もう今の段階でご夫婦2人だけというところが5割とおっしゃってましたが、ご夫婦2人暮らしを、もう少し年齢を下げたり1人暮らしまでを入れると6割なんですね。この6割の人達は多分家族の中で介護をお願いする人はお互いか1人でしかないという状態がもう目の前に迫っています。非常に川西町の現状を出しているかなと思われるので、今後の計画の中で具体的な行動プランを立てていく中で、ぜひこういう現状を踏まえた形でいかに必要でないと思っていらっしゃる方とか、外に出ることの必要性がまだまだそんなに迫っていない方に対して、通常的に人と触れ合うとか、運動するということをどう刷り込んでいくかということが、改めて大事ななと思いました。

(C委員)

アンケートの中で物忘れが多いと感じられる方が半分強おられたということですが、地域包括支援センターとしましても、認知症予防として、サポーターの養成講座やいろいろな教室を展開していきたいと思っていますので、物忘れを多いと感じる方々、地域ごとに分けてのアンケートの結果というのは教えていただけますでしょうか。そういった地域に関して重点的にこちらからアプローチさせていただいて、教室に参加しませんか、ということと呼びかけをしたり、アンケートの基本チェックリストとかぶっている、同じものがあるかなとも思うのです。その点で身体機能に不安を感じておられる、そういう方々が多い地域に関しては介護予防教室の積極的な展開という形で今後の事業展開の参考になるかなと思いましたので、もし地域ごとや、男女比という比率でのそれぞれの項目の分けた部分があればまた教えていただきたいと思いますと思っています。

(事務局)

はい、すぐ集計して事務局からお伝えすることにします

【 事務局より連絡事項 】